友生小だより

伊賀市立友生小学校　No.１０　２０２６年９月２４日



避難訓練を実施しました



９月１日（火）、今年度3回目の避難訓練を実施しました。１学期には火災と不審者を想定した避難訓練でしたが、今回は地震に対応した避難訓練です。

子どもたちは、事前に各学級で防災についての学習を行ったうえで、訓練を迎えました。授業中に地震が発生したとの放送を聞き、危機回避の後、安全を確認して運動場に避難しました。その後、教室に戻り各学級で振り返りを行いました。夏休み中に起こった熊本での地震についても触れ、三重県でも南海トラフ地震について、その想定や対策が進められていることなども話しました。また避難訓練の際にいつも話すことですが、災害発生時に学校以外にいたり、周りに大人がいなかったりすることから、日ごろから家族と話し合ったり、身の回りにどんな危険があるかを考えたりすることが大切であることなども話しました。

また教職員も、夏季休業中に応急手当等を含む緊急時の対応について校内で研修を行ったり、校内にある避難用の垂直式救助袋の点検を兼ねた使用訓練などを行ったりしました。ご家庭でも機会を捉え、子どもたちと防災や災害時の対応などの話をしていただければと思います。

ビブリオバトルを開催しました



９月14日（月）に、読書アドバイザーの林康子さんをお招きして5年生でビブリオバトルを実施しました。班に分かれて自分のおすすめの本を紹介しあい、その班で最も「読みたい」という気持ちになった「チャンプ本」を決定しました。物語や図鑑など様々なジャンルの本を持ち寄り、ストーリーや挿絵、読んだ感想など、どんなことを班のメンバーに伝えるか考え、自分のお気に入りやおすすめのポイントなどを伝え合いました。自分が読む楽しみや、その魅力を人に伝える楽しみ、相手がどんな感想を持ったのか聞く楽しみなど、読書の楽しみ方はいろいろあります。ぜひご家庭でも子どもたちがどんな本を読んだか、また保護者の方がどんな本を読んだのかなど、楽しみながらお話ししていただく機会を持ってみてください。

「全国学力・学習状況調査」の結果から

4月23日に6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果が7月中旬に発表されました。本校の子どもたちは、最後まで粘り強く取り組み、無回答率も全国に比べて低い数値となっています。平均正答率において、国語・算数ともに全国比を上回っていますが、個々の設問を分析し、本校の子どもたちの強みと課題を今後の学習活動に活かしていきます。

【学力調査の結果】

友生小学校の結果

○ 国語・・・「全国と比べてやや上回っている」

○ 算数・・・「全国と比べて上回っている」

※　表記については、学校の平均正答率の差が全国と比べて、+5%以上が「全国と比べて上回っている」、+2%以上～+5%未満が「全国と比べてやや上回っている」、±2%未満が「全国と比べてほぼ同じである」、−2%以上～−5%未満が「全国と比べてやや下回っている」、−5%以上が「全国と比べて下回っている」と表されます。

【各設問の結果からわかった本校の子どもたちの強み】

◇国語




○ 漢字を文の中で正しく使うことができる。

○ 話や文章の種類とその特徴について理解することができる。

○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

◇算数

○ 四捨五入して、概数で表すことができる。

○ 帯グラフの特徴と用い方を理解し、おおよその割合を読み取ることができる。

○ 小数の仕組みを理解し、条件に合う小数をつくることができる。

○ 体積の計算、時間の計算ができる。

【各設問の結果からわかった本校の子どもたちの課題】

◇国語

1．筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

2．考えとそれを支える理由や事例など情報との関係について理解すること。

※ 上記1⇒本校正答率43%（全国正答率57%）、上記2⇒本校正答率43%（全国正答率48%）。1は「書くこと」、2は「情報の扱い方に関する事項」の内容にそれぞれ課題が見られました。

◇算数

1．単位量当たり（混み具合）の意味、基準量、比較量、割合の関係を理解すること。

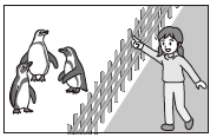
2．二次元表を読み取ること。

3．小数の加減計算をすること。

※本校正答率21%（全国正答率36%）

1のうち「単位量当たり（混み具合）の意味については、次のような設問でした。

(3) AとBの2つのペンギンの広場があります。
下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。



広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数（羽）	面積（m²）
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

A	10 ÷ 20 = 0.5
B	12 ÷ 30 = 0.4

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようにまとめます。
下のアとイ、ウとエの中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は［ア：1m²あたりのペンギンの数／イ：1羽あたりの面積］を求めています。
商を比べると［ウ：商が大きいAの広場／エ：商が小さいBの広場］の方がこんでいることがわかります。

正答は、「ア・ウ」の組み合わせですが、本校では「イ・エ」の組み合わせが最も多く選ばれていました。単位量当たりの大きさについては、基準量・比較量・割合の関係を理解することについて課題があり、今後も繰り返し取り組んでいきます。

【学習状況調査の結果からわかった本校の子どもたちの様子】

【良いところ】

○ 学習については、「国語の授業の内容はよく分かる（全国比+3.4）」、「算数の授業の内容はよく分かる（全国比+5.5）」と全国に比べ高い数値でした。
また「授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う」について、全国比で、国語は+3、算数は+7とそれぞれ高い数値でした。

○ 学校生活については、「学級では人と違う意見を言っても否定されないと思う」と肯定的に回答した 児童が、全国に比べ5.8ポイント高い数値でした。その他「自分には

いところがあると思う（全国比+5）。」「地域や社会をよくするために何かしてみたい（全国比+10.5）。」といった設問も、肯定的に回答した児童が、全国に比べ高い数値でした。



【課題】

○ 家庭学習と生活習慣について

「学校の授業以外の一日当たりの勉強時間（平日）」が1時間以上と回答した児童が、全国に比べ12.2ポイント低い数値でした。また「平日にスマートフォン等でSNSや動画視聴する時間（いわゆるスクリーンタイム）」が2時間以上と回答した児童が、全国に比べ14.1ポイント高い数値でした。この「家庭学習の時間」と「スクリーンタイム」のそれぞれの時間については、今後も学校と家庭で一緒に考えていくことが必要です。特に「スクリーンタイム」については、本校だけでなく全国的な課題ともなっており、「家庭学習の時間」についての課題にも関わっていると考えられます。子どもたちが自ら「時間を計画的に過ごす」ことを意識した生活を送るための取組を進めていきます。ご家庭でも、ご協力をよろしくお願いします。

○ 「読む力」の向上・読書習慣の定着について

読書力の向上、読書週間の定着は、伊賀市においても重要な取組として進められています。「普段1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」という設問では、「10分より少ない」または「全くしない」と回答した児童が全国に比べ5.8ポイント高い数値となっています。また、本校の児童アンケートでは「読書が好き」という質問に対して、学年が上がるにつれて数値が下がる傾向にあります（1～3年生90%台、4～5年生70%台、6年生60%台）。

本校でも、低学年を中心とした「読み聞かせ」や、高学年を中心とした「ビブリオバトル」など、子どもたちが読書を楽しみ、習慣として定着するための様々な取り組みとともに、図書館司書の方の協力を得て「行きたくなる図書室」の整備を進めています。

ご家庭でも、読書力の向上に向け、ご協力をよろしくお願いします。

学校では、学力調査の結果をさらに詳細に分析し、課題の解決に向けた具体的な手立てを考え、今後の指導改善につなげてまいります。また、課題解決にむけ、学校と家庭の連携を大切にしながら取り組みを進めていきたいと考えています。